# 沖縄県国頭郡伊江村
# 西江上方言の副助詞

生塩　睦子

## Ⅰ．はじめに

1．調査対象地：伊江島は沖縄本島北部の本部(もとぶ)半島から北西約９km離れたところにある。島は東西約 8.4km、南北３km。島の東部の中央には城山（172m）があり、その山麓から南海岸にかけて集落がひらけている。一島で一村（伊江村）をなしており、８か字からなる。

生業は主として農業（さとうきび・葉たばこ・落花生など）。

本部半島渡久地港から伊江島までカーフェリーが就航（一日４～５往復。所要時間30分）。村内には、集落を一周するバスが運行されている。

人口 5,396人・世帯数 2,004(1999年 3月31日現在)。

2．調査年月日：1998年３月28日・29日・30日

3．話者：山城文男さん　　1911年（明治44年）生（88歳）
沖縄県国頭郡伊江村西江上在住

4．調査場所：伊江村教育委員会老人会室

5．調査方法：統一調査表による質問調査

6．表記の方法：方言表記はカタカナを用いる。まぎらわしいカタカナ表記に該当する音声は次の通り。

キ〔ji〕・ッユ〔ʔju〕・ッツィ〔ts̀i〕・ッラ〔ṙa〕・ッケ〔k̀e〕・ック〔k̀u〕
ゥウ〔wu〕・ッマ〔m̀a〕・ッニャ〔ṅa〕・ッカ〔k̀a〕

アクセントは、「　　」で示す。

## Ⅱ．調査結果

### （１）添加・例示・提題などをあらわすもの

1．雨だけと思ったら、風さえ吹いてきたよ。　○アミービケ「イ」ディ　ウムリ「バハ「ズィ」ン　プチ「チュッ「ツァ。

2．今年は豊作で、大麦ばかりか小麦もよくとれたねえ。　○フ「トゥ」シヤ　「ヨ」ープドゥシ　ナティ、ウプム「ジビケ「イ」ディ　ウムリ「バ　ニャー「ム」ジン　ユ「ーディキ「ティヤ」ー（「よくとれたねえ」は、「ヨ」ープ　ヤッ「ツァ　も可）。

3．子どもたちでさえワープロを使っているんだよ。　○ワ「ラ」ビンチャチョ」ン

ワー「プ゛ロ　スィカ゛ティ゛ゥウンデャ「ー。

4．当たると思っていなかっただけに嬉しい。　○ウ「ミ゛ンチャキラン　フトゥ「ーアティ゛ヨー。イチャ「ツァ　キー゛シャアタツァ（思いがけないことがあってね。とても嬉しかった）。

＊原文の用法の「だけ」に対応する副助詞はない。

5．暇さえあれば魚釣りに行っている。　○マドゥ「ヌ　アイ゛シンデ　「ッユ゛ックゥーシンジャ　イチュン（「マドゥ「ヌ　アイ゛シンデ」は「暇があり次第」の意。ティマ゛ヌドゥ　アレ「ー＜暇がぞあれば＞も使える）。

6．まあお茶でも飲んでください。　○「ッニャ゛　チャーン゛デ　ヌ「ディ゛イチバ。

7．みやげにはこのまんじゅうなどどうかな。　①スィトゥ「ヤ゛　フヌ　マンジュム「チ゛ヌクェ　イチャ゛ガ。　②スィトゥ「ヤ゛　フヌ　マンジュム「チ゛ヤティン　イチャ゛ガ。

＊この「など」の意には「ヌクェ」の方が適切で、「ヤティン」を使うと多少軽蔑の意がこもる。

8．思わず跳びあがるほど嬉しかった。　①ウビラ゛ズィ　トゥ「ヌ゛ジパニ　ッツィロ゛ーカ　キーシャ「シュ゛ッツァ（「ッツィローカ」は「するまで、する位」の意）。②トゥヌ゛ジクルチ　キーシャ「シュ゛ッツァ（飛び跳ね回って嬉しがっていた）。

＊原文の用法の「ほど」に対応する副助詞はない。

9．まさかお前にまでこの話が通っていたのかい。　○サティ゛ムサティム　「ッラ゛ーヤケン　フヌ　パナ「シ　トゥー゛トゥタルバ「イ（「サティムサティム」は「あらまあ」という意の、主に老女の使った感動詞。非常に珍しい事態を語る時に出てくる）。

＊「お前にまで」は「「ッラ゛ーヤケン」（お前までも）の表現が適切。

10．なぐるやら蹴るやらの乱暴をはたらいた。

＊原文の用法の「やら」に対応する副助詞はない。

叩いたり殴ったり乱暴をした。　①タタ「チャ゛イ　フル゛チャイ　ラン「ボ゛ーシャ゛ン。　②ティン゛シャマ　アメー゛ティ　トゥイ「スィ゛カニン　ナラ゛ンナタン（暴れまくって取り押さえることもできなかった）。

11．わたしになり相談してくれれば良かったのに。　○ワヌ゛ンカイチョン　パナ「シシ゛ートゥラセ゛ー　ヤ「ティ゛アルムヌー.

煮るなり焼くなり好きなようにして食べなさい。　○ニャーバ「ー゛ン　ヤカバ「ー゛ン　「ッラ゛ー　マシ゛ヤルグトゥシー　「ッケ゛ーバ（「ニャーバ「ー゛ン」は、未然形「ニャーバ」に係助詞ン＜「も」＞が結合した形）。

12．さつまいもなんていくらでもできる。　○ウム「ドゥ゛ン　ヤレ「ー　イチャ「ー゛ツァヤティ゛ン　ナユン。

＊「ドゥン」には必ず動詞仮定形が後接する。

13. しょうゆだってみそだって作っていたんだ。　○ショーユ˥ヤティン　ン˩シュ˥ヤティン　ヤー˩ナ˥イティ　スィク˥トゥタン。

14. 私なり弟なりがお手伝いに行きます。　①ワン˥ヤティン　ウ˩トゥ˥ヤティン　テーネ˩シ˥ンジャ　イチュ˥ンド˩ー。　②ワーヤラバ˩ー˥ン　ウ˩トゥ˥　ヤラバ˩ー˥ン　テーネ˩シ˥ンジャ　イチュ˥ンド˩ー。

＊この「なり」には「ヤティン」が使われるが、「ヤラバ˩ー˥ン」とも表現される。

15. 誰とて、そうするより仕方なかったんだろう。　○タ˥ーヤティン　˩アン˥シュスィカシカ˥タ　ナラン˥ナタンヤ˥ー。

16. 春になって、梅も桜も一度に咲いた。　○パル˩ヌ˥スィチ　ナティ　ンミ˥ン　サク˩ラ˥ン　チュケイ˩ナ˥イ　サチャン。

17. テレビも買い換える時分じゃないかい。　○テレ˥ビン　˩ホ˥ーイケーシュル　ジ˩ブン　アラン˥ニ.

18. まあお茶でも飲まれませんか。　○˩ニャ˥　チャー˩ヌ˥ン　ヌニョ˩ー˥ランナ。

19. 盆には子や孫などが帰ってくる。　○シチグヮ˥ツィヤ　˩クヮ˥ーマーハンチャヌクェ　ムル　ケ˩ー˥ティチュン。

20. ゲートボールだってできるよ。　○ゲート˩ボー˥ルヤティン　ナユンド˩ー。

21. 何だい、いいことって。　○ヌ˩ー˥ディ　˩キ˥ー　イ˩ー˥フトゥ˩ー˥ディ。

＊当方言では「って」に対応するのは、格助詞「ディ」である。

22. そんなこと子供にでもできるよ.　○ウヌアタイ˥ナ　フトゥ˩ヤ　ワラ˥ビヤティン　ナユッ˩ツァ。

23. 食べることくらいは何とかしたい。　①ッケーク˥チヌ　アタ˥イヤ　イチャ˩ー˥シヤティン　ナユッ˩ツァ。　②ッケ˥ール　フトゥドゥ˥ン　ヤレ˩ー　イチャ˩ー˥シヤティン　ッケ˥ードゥ　シュ˥ール（「イチャ˩ー˥シヤティン」は「何としてでも」の意。

＊原文の用法の「くらい」に対応する副助詞はない。

24. 名前すらろくに覚えていない。　○˩ナ˥ーチョン　アマクマウ˩ビ˥シ　ウビ˥ティウラン。

25. 弁当代に千円もかかった。○ビントゥデ˥ンカイ　˩セン˥エヌン　ハー˥タッツァー。

26. これさえあればもう大丈夫だ。　○フリ˥ドゥン　アレ˩ー　˩ッニャ˥　スィニュッ˩ツァ.

（2）分量・程度・基準などをあらわすもの

27. 旅行で三日ほど家をあけた。　①タディ˥シ　サン˥ニチビケイ　ヤ˩ー　アキ˥タン。　②タディ˥シ　サンユ˥ッカ　ヤ˩ー　˩ックー˥タン（旅で三四日家を閉めていた。「三日ほど」は「サンユ˥ッカ（三四日）」とも表現される）。

28. 茶碗に半分くらいください。　①マハインカ˥イ　ナハラビケ˥イ　「ッキ˥ーヤンネ。　②マハ˥イヌ　ナハラビケ˥イ　イリ˥ティ　トゥラ˩スィ。

29. 子供にでもわかるくらいやさしい本だ。　ワラディ˥ンチャンカイヌン　ワカイ˩ヤ˥ッツァル　シュム˥ツィ（子供たちにでもわかりやすい本）。

＊原文の用法の「くらい」に対応する副助詞はない。

30. 一週間ばかり留守にするので頼むよ。　○シチパチニ˥チビケイ　ヤ˩ー　パナリユ˥トゥ　タル˩ニュ˥ンド˩ー。

31. 今年の寒さは去年ほどではない。　○フ˩トゥ˥シヌ　ピー˥サヤ　フズヌグ˩ー˥トゥ　ネン˥ティアッツァ。

＊原文の「ほど」に対応する副助詞はない。「去年ほど」は「フズヌグ˩ー˥トゥ（去年のよう）」が使われる。

32. ちょっと油断したばかりにとんでもないことになった。　○イトゥ˥チヌ　ユ˩ダン　シャ˥ール　タ˩ミ˥ナイ　ウミ˥ンチャキラン　ウーグ˩トゥ　ナティヨ˥ー。

＊原文の用法の「くらい」に対応する副助詞はない。

33. 苦労しただけあって人間ができている。　○アワ˩リ　シャ˥ールッツァ　ニン˩ジ˥ン　ディキ˥ティ ゥウンド˩ー（「アワ˩リ　シャ˥ールッツァ」は「苦労した量ほど」の意で、「ッツァ」は接尾語）。

34. 毎日孫の守りやなんかで忙しい。　○メー˩ニ˥チ　ッマ˩ー˥ハヌ　クゥームー˥ヤンチャ　シ˥ー　イチュナ˩ー˥シャ。

＊「なんか」には「ンチャ」、または「ヌクェ」が使われる。

35. それこそバケツをひっくりかえしたような大雨だ。　○フ˩リ˥ティビヤー、バケ˥ツ　ティッ˩ケ˥ーラチャルグトール　ウプアミヤ˥ー（「フ˩リ˥ティビヤー」は、以下の文を強調する前置きの語句で、原意は「こうなんだよねえ」）。

＊原文の「こそ」には、副助詞で表現されないのが一般的。

36. 父ばかりではないよ。母も競走がとっても好きだよ。　○チャー˥チャビケイ　アランド˩ー。˩アン˥マン　ユ˩ク　パエーク˩ナ　スィチ˥ド˩ー。

37. もう食べるばかりにしてある。　○˩ッニャ　ッカ˥ーリルグトゥ　スィコ˩イ　ナティ˥ゥウンド˩ー（「ッカ˥ーリルグトゥ」は「食べられるように」の意）。

＊原文の用法の「ばかり」に対応する副助詞はない。

38. 今、仕事から帰ったばかりだ。　○˩ッニャン˥マ　シク˥チーラ　チッチャー˥ケデンデャ˩ー（「チッチャー˥ケ」は、「帰ってすぐ」の意）。

＊原文の用法の「ばかり」に対応する副助詞はない。

39. 港までもうちょっとだ。　○ニャ˥ートゥヤケ　チュッ˩ティ˥シャデャ˩ー（「チュッ˩ティ˥シャ」は、「一歩」に対応する語で、近いことを意味する）。

40. 一人ずつ呼んで話をした。　○チュイ˩ナ　ユ˩ディ˥　パナ˩シ　シャ˥ン。

＊「ずつ」には接尾語「＝ナ」が使われる。

41. 一人に二個ずつだよ、みかんは。　○チュイ¬ンカイ　ッターツィ「ナ¬ド「ー、クニ¬ブヤ。

（3）限定・限界などをあらわすもの

42. 酒はたまにしか飲まない。　○サキ¬ヤ　マリマ「リ¬ドゥ　ヌニュ「ン¬デャ「ー（酒は稀稀にぞ飲むのだ）。

＊原文の「しか」に対応する語は、当方言にはない。

43. 今朝は寝坊をしてパンだけ食べてきた。　○チュ¬ーヤ　ア「サ¬ニ　シー　「パン¬ビケイドゥ　「ッカ¬ッティチャッ「ツァ。

44. そんなに勉強ばかりしていると体に毒だよ。　○アン「シ¬ー　ベンチョビケ「イ¬シ¬ーゥウレー　「ドゥ¬ー　ッコーシュ¬ンド「ー。

45. うちの畑が残っているきりで、よそは全部終わった。　○ワタ　パル「ー¬ビケイノホ¬ティ、チュ¬ンヤーヌ　パル「ヤ　ム「ル　ウワ¬トゥンド「ー（うちの畑だけが残っていて、よその畑は全部終わってるよ）。

＊当方言には「残っているきり」の対応する表現はない。

46. もうこれだけしかないよ。　①「ッニャ¬　フッツァビケ「イ¬デンド「ー（もうこれだけだよ）。　②「ッニャ¬　フッ「ツァ¬ドゥ　ヤンド「ー（もうこれだけだよ）。　③「ッニャ¬　フリヤ「ケ¬ド「ー（もうこれまでだよ）。

＊「これだけしかない」に対応する言い方はされないで、「これだけだ」と表現される。

47. 今年こそいい年にしたい。　○フ「トゥ¬シヤ　イチャ「ー¬シン　ディキドゥ「シ¬ナサー「ヤ¬ー。

＊「今年こそ」は「フ「トゥ¬シヤ　イチャ「ー¬シン（今年はどうしても）」と表現されるのが一般的であるが、次の文なら「こそ」は「ドゥ」で表現される。

それは後でこそできる。　○ウレ¬ー　ア「トゥ¬ドゥ　ナユル。

48. これだけ言っても分からないのか！　○フッ「ツァ¬　イチ¬ン　ワハ「ラ¬ン　バ「イ！

＊この「だけ」には接尾語「＝ツァ」が使われる。

49. 2千円くらいまでなら何とかなる。　○ニ「セン¬エンヤケドゥ¬ン　ヤレ「ー　イチャ「ン　ナイ「ドゥ¬シュ¬ール。

（4）陳述的なもの

50. 肥料をやればやるだけよく育つ。　○フン「グェ¬ー　イリ¬レー　イ「リ¬ユルッツァ¬ヤ　ディキユ¬ンド「ー。

＊「イ「リ¬ユルッツァ¬ヤ」は「（肥料を）入れる量ほど」の意で、「ッツァ」は接

尾語。

51. 心配すればこそ言うんだ。　①シ「ワ¬　ヤトゥ¬ドゥ　「ッユ¬ンド「ー（ヤトゥ¬ドゥは「だからこそ」の意）。　②シ「ワ　シ¬ードゥ　「ッユ¬ンデャ「ー（シ¬ードゥは「してこそ」の意）。

52. 彼は文句こそ言え、人の言うことなど聞かない。

○アリ¬ヤ　クン「ジョー¬リビケイドゥ　「ッユ¬ール。「ッチュ¬ヌ　ッユ¬ーセーチチャ¬ンド「ー。

＊当方言では、「文句こそ言え」にそのまま対応する表現はされない。

53. 54. 55.　なし。

56. 今でこそ家から出ないが、昔はよく出歩いていた。　○「ッニャン¬マドゥ　ヤー「ラ　イジラ¬ンナル。ンカ¬シェー　ユ「ー　イジ¬ティ　アイチュ¬タンド「ー。

57. 働けば働くほどもうかる。　①パタ¬ラチュル　フッ「ピ¬ドゥ　モーキラリ¬ン。②パタ¬ラケー　パ「タ¬ラチシンデ　モーキラリ¬ン。

＊原文の用法の「ほど」に対応する副助詞はない。

58. 村長に聞くまでもないことだ。　○ソン¬チョーンカイ　チ「チュ¬ル　フトゥ「ー¬アランナエ「ー¬ツァーニ。

＊原文の用法の「ほど」に対応する副助詞はない。「聞くまでもないことだ」は「聞くこともないんじゃないか」で表現されるのが一般的。

59. 朝から忙しくて昼飯も食えない。　○スィ「カ¬マーラ　イチュナー¬シャ　シュン¬ディ　ティルマン¬チン　「ッカ¬ーラン。

60. こんなものなどいくらでもあるよ。　○フヌグ「ー¬トゥル　ムヌ「ヤ　イチャー¬ツァンヤティ¬ン　アユッ「ツァ.

61. 誰だってそんなこと言われたら怒るよ。　○タ「ー¬ヤティン　ウヌグ「ー¬トゥル　フトゥ「ー　ッヤ¬ーレー　ワジ¬ゥウッツァ。

（5）モダリティー的なもの

62. 10年前に故郷を離れたきり、一度も帰っていない。　○ジューニ¬ンメ¬ー　シマ「ーパナリ¬ティーラ　チュムドゥ¬シン　ケ「ー¬ティ ゥウラン。

＊原文の用法の「きり」に対応する副助詞はない。

63. いつの間にやら眠ってしまった。　○イチャヌ　マドゥ¬イナイヤラ　「ニン¬ティゥウッ「ツァ。

64. 何のことか分からない。　○ヌ「ー¬ヌ　フトゥ「ー¬ヤラ　ワハラ¬ン。

65. 後で遊びに行くかもしれない。　○アトゥー「ラ　アスィ¬ディンジャ　イチュ¬ラン　ワハラ¬ンサ。

＊原文の用法の「か」に対応する副助詞はない。

66. 来るのやら来ないのやらわからない。　①チュー「ル」　バーヤラ　フー「ヌ」　バーヤラ　ワハラ「ン。　②チュー「ラ　フン「ナラ　ワハラ「ン。

67. どこやらへ引っ越したそうだ。　○ダン「カイヤラ　ウツィ「タ「ンディ。

＊共通語では「やらへ」「へやら」両方使うが、当地では「へやら」に対応する「ンカイヤラ」しか使わない。

68. お父さんたら今日も遅いのね。　○チャ「ー「チャヤ　「チュ「ン　ニ「ー「サアッツァ「ヤ「ー。

＊当方言には「たら」に対応する副助詞はない。

69. お父さんてば、子供のようなことを言って。　○チャ「ー「チャディバ、ワラ「ビヌ　グ「ー「トール　フトゥ「ー　「ッユ「ッツァ。

＊「ディバ」は「と言えば」に対応する連語の縮約形。

## Ⅲ. 総括（まとめ）

伊江島方言の副助詞を、文例（数字は文例番号）に従ってまとめると次のようになる。— の左側が共通語、右側が伊江島方言、「無」は、対応する副助詞がない意をあらわす。

A. 添加　1. さえ — ン・ヤケ　／　2. も — ン

B. 予想外の事実　3. さえ — チョン　／　4. だけ — 無

C. 条件　5. さえ — 無

D. 例示　6. でも — ンデ　／　7. など — ヌクェ・（ヤケ）　／　8. ほど — 無
9. まで — ヤケ　／　10. やら — 無　／　11. なり — チョン
12. なんて —（ドゥン）　／　13. だって — ヤティン
14. なり — ヤティン　／　15. とて — ヤティン　／　16. も — ン
17. も — ン　／　18. でも — ヌン

E. 包括　19. など — ヌクェ

F. 提題　20. だって — ヤティン　／　21. って — 格助詞ディ
22. でも — ヤティン　／　23. くらい — 無　／　24. すら — チョン
25. も — ン　／　26. さえ — ドゥン

G. 分量・程度　27. ほど — ビケイ　／28. くらい — ビケイ　／29. くらい — 無
30. ばかり — ビケイ

H. 基準　31. ほど — 無

I. 理由　32. ばかり — 無

J. 「それにふさわしく」33. だけ — 接尾語＝ッツァ
形式名詞的用法　34. なんか — ンチャ・ヌクェ
「それこそ」35. こそ — 無　／　「〜ばかりか」36. ばかり — ビケイ

K．今にも行われる　37．ばかり ― 無　／　動作の完了直後　38．ばかり ― 無
　基準　39．まで ― ヤケ
L．等級の反復　40．ずつ ― 接尾語＝ナ
M．等量の配分　41．ずつ ― 接尾語＝ナ
N．限定　42．しか ― 無　／　43．だけ ― ビケイ　／　44．ばかり ― ビケイ
　　45．きり ― ビケイ
O．強調　46．しか ― 無　／　47．こそ ― ドゥ
P．限界　48．だけ ― 接尾語＝ッツァ　／　49．まで ― ヤケ
Q．「～ば～」　50．だけ ― 接尾語＝ッツァ　／　「仮定形・ば」51．こそ ― （ドゥ）
　52．53．54．55．　― 無
　「～こそ～が」　56．こそ ― ドゥ　／　「～ば～ほど」　57．ほど ― 無
R．打ち消しと呼応　58．まで ― 無　／　否定と呼応　59．も ― ン
　否定的取り上げ　60．など ― 無　／　全面否定　61．だって ― ヤティン
S．次の動作が不可能　62．きり ― 無
T．不確かな気持ち　63．やら ― ヤラ　／　64．か ― ヤラ
　推定　65．か ― 無　／　66．やら ― ヤラ　／　67．やら ― ヤラ
U．非難　68．たら ― 無　／　69．てば ― 連語ディバ

以上の結果を、共通語と伊江島方言を対照した形でまとめてみる。

副助詞「共通語 ― 伊江島方言」対照表

| 共通語 | | 伊江島方言 |
|---|---|---|
| も | ・添加<br>・列挙<br>・同類の暗示<br>・極端なものの提示<br>・否定との呼応 | ン |
| だって | ・一対の語の例示<br>・提題<br>・全面否定 | ヤティン |
| | | |

| | | |
|---|---|---|
| まで | ・例示<br>・基準<br>・限界 | ヤケ |
| | <～するまでもない> | 無 |
| やら | ・不確かな気持ち<br>・どちらかわからない<br>・はっきり言わない | ヤラ |
| | <～するやら～するやら> | 無 |
| | | |

| | | |
|---|---|---|
| ばかり | ・程度<br>・限定<br><〜ばかりか〜も> | ビケイ |
| | <今にも〜するばかりだ><br><今、〜したばかりだ><br><〜したばかりに> | 無 |
| すら | ・極端なものの提示 | チョン |
| でも | ・例示 | ンデ |
| なんて | ・例示 | (ドゥン) |
| とて | ・例示(例外でない) | ヤティン |
| なんか | <〜やなんかで〜> | ンチャ<br>ヌクェ |
| こそ | ・強調<br><〜こそ〜しないが><br><〜すればこそ> | ドゥ<br>ドゥ<br>(ドゥ) |
| | <それこそ> | 無 |
| さえ | ・添加 | ン<br>ヤケ |
| | ・予想外の事実 | チョン |
| | ・軽いものの提示 | ドゥン |
| | ・条件 | 無 |
| なり | ・例示 | チョン |
| | ・例示(択一) | ヤティン |
| でも | ・極端なものの提示 | ヤティン |
| | ・例示(やわらげ) | |
| など | ・例示<br>・包括 | ヌクェ |
| | ・例示(軽蔑的) | ヤティン |
| | ・否定的取り上げ | 無 |
| だけ | ・限定 | ビケイ |
| | ・限界<br><〜ば〜するだけ><br><〜しただけあって> | 接尾語=ッツァ |
| | <〜いなかっただけに> | 無 |
| ほど | ・程度 | ビケイ |
| | ・基準<br><〜するほど><br><〜すれば〜するほど> | 無 |
| くらい | ・分量 | ビケイ |
| | ・極端なものの提示<br><〜するくらいの〜> | 無 |

| | | |
|---|---|---|
| きり | ・限定 | ビケイ |
| | <～したきり～でない> | 無 |
| か | ・不確かな気持ち | ヤラ |
| | <～するかもしれない> | 無 |
| しか | ・限定<br>・強調 | 無 |

| | | |
|---|---|---|
| ずつ | ・等量の反復<br>・等量の配分 | 接尾語＝ナ<br>接尾語＝ナ |
| って | ・話題にあげる | 格助詞ディ |
| てば | ・非難 | 連語ディバ |
| たら | ・非難 | 無 |

さらに、伊江島方言の副助詞がどの共通語副助詞と対応するか、の観点から簡略にまとめると次のようになる。

| （伊江島方言） | | （共通語） |
|---|---|---|
| ヤケ | — | さえ |
| チョン | — | さえ |
| ンデ | — | でも |
| ドゥ | — | こそ |
| ヌン | — | でも |
| ン | — | さえ・も |
| ヤラ | — | やら・か |
| ヌクェ | — | など・なんか |
| ンチャ | — | など・なんか |
| ドゥン | — | さえ・なんて |
| ヤティン | — | だって・なり・とて・でも・など |
| ビケイ | — | ほど・くらい・ばかり・だけ・きり |

但し、いずれの伊江島方言副助詞も、共通語副助詞にみられる用言に後接する用法（文例4・8・10・29など）はない。

（おしおむつこ　広島経済大学）